

実践校に関する事項		
学校区分	学校名	学校長名
中学校	那智勝浦町立色川中学校	寺地 琢也
学校所在地		
〒649-5461 東牟婁郡那智勝浦町大野 2410-1 tel 0735(56)0109 fax 0735(56)0346		
担当者名		役職名・担当教科
前田 裕史		教頭・保健
<p>〔学校の概要〕 本校は JR 西日本・那智駅より 21 km、曲折の多い山道を経て当校に至る。地域住民は主として農林業と山林作業によって生計をたて、民家は山の斜面に点在している。 当地域は自然環境に恵まれ、古くから教育村として知られている。地域住民は教育に深い理解と関心を持ち、情に厚く協力的である。茶栽培に力を入れ、口色川地区にオート式茶工場がある。 一般人口も生徒数も減少している。このことは地域の産業経済全体が不安定であることと関連が深く、地域外への移住や出稼ぎに出なければならないのが実情である。しかし昭和 52 年に有機農業の経営をめざして首都圏から転入し、主として口色川・大野地区に移住して農業の経営に従事している人々もいる。その後、新規参入者は年々増加傾向にあり、町でも県の補助を受けて農林業従事者に対する定住促進事業が行われ、9 戸の住宅が建設された。現在は、すべてに入居を終えている。 高校への進学率はほぼ 100% であるが、自宅から通学する身体的かつ経済的な負担はかなり大きいと思われる。</p>		
研究実践に関する事項		
対象者児童・生徒	学習支援者等（延人数）	主な活動場所
1 学年 5 名	2 名 職員 2 名	和歌山県世界遺産センター
実践研究テーマ		
少人数の特性を生かした学習活動の工夫		
実践教科等名	単元名	
総合的な学習の時間	土地を知る、職業を知る、人を知る	
<p>〔キーワード〕 郷土学習 世界遺産学習 情報活用能力</p>		
<p>〔単元目標〕 (1) 調べ学習を通して、自己を見つめ、地域社会の構成員として地域を支え貢献するための基礎的な資質、能力を身につける。 (2) これまでの学習で身につけた知識や技能を活かし、主体的に課題を解決しようとする態度を育てる。 (3) 自らの体験や考えをまとめ、社会事象と結びつけ、わかりやすく伝える方法と技術を身につける。</p>		
<p>〔学習に当たった全学習時間数（世界遺産学習に関わる時間数及び 学習活動名／教材名）〕 全体 15 時間 （「 世界遺産学習 」 10 時間 ）</p>		
<p>〔地域および文化財管理者等との連携の実施状況〕 和歌山県世界遺産センター・・・世界遺産入門、次世代育成授業（現地学習など） 世界遺産マスター・・・次世代育成授業（現地学習）</p>		

実践に関する事項

〔単元指導計画概要〕

	主な学習活動	学習への支援	評価方法等
1	1. 色川の人や土地について調べる。 2. 自分の調べたい、伝えたいテーマを決める。	・過去の先輩のまとめ、保護者からの聞き取り、生徒相互の話し合いなどから色川の基本的な事柄を確認し、個々のテーマを設ける。	ワークシート
2	3. 活動計画を立てる。 取材の場所や方法を考える。	・他教科、領域での既習経験を生かし、目的に応じて、必要な資料を選び、調べる方法を考える。	ワークシート 観察
3	4. 自分のテーマに基づき、課題を追求する。 5. 直接現地に行って取材して調べる。 6. 図書資料で調べる。 7. インターネットで調べる。 地域の方にインタビューする。	・対象に積極的に関わろうとする。 ・課題に応じて多様な調べる方法でチャレンジする。 ・施設やインタビューなど地域の人と直接関わる場合、連絡を取り合い取材の仕方について考える。	ワークシート 観察
4	8. 調べたことを「学習発表会」で発表する。 9. 調べたこと、発表したことをまとめ記録する。	・自分たちの思いや願いが伝わるように表現する。 ・分かりやすくまとめられている。	ワークシート 観察 自己評価

〔単元学習の成果と課題〕

成果：地域について知っていること、感じていることを改めて調べなおし、多様な方法で整理し、まとめることができた。またそれらを相互に伝え合い、わかり合えた。さらに学習発表会において保護者、地域の方々とも共有できた。この過程では、直接の聞き取り、アンケート、電話・手紙でのやりとりが行われ、学習内容の習得だけでなく、コミュニケーション力、表現力、感性などさまざまな面が伸ばされた。

課題：系統だって調べることは大事だが、中学校の場合、小学校で学んだことや前年度の学習と重複したりすることがある。

〔世界遺産学習の効果〕

地域学習は総合学習で毎年行っている。その成果は様々に出ているが、世界遺産学習が加わることにより、より広い視野、興味・関心の広がりが見られる。具体的には世界遺産学習を通して、自分たちの住む地域の魅力に改めて気づき、今後の職業観を形成していく際の原体験となった。

「紀伊山地の霊場と参詣道」を観光として訪問する機会があるにしる、事前学習・現地学習によって、より深く歴史的、文化的に理解できた。また概念的理解にとどまらず文字通り体験できたことは大きかった。

〔世界遺産学習の今後の方向性及び改善点について〕

これからの国際社会を形成する主体者として子どもたちの資質を高めるには、世界遺産学習を通して先人たちの思いに触れ、様々な国の人たちとよりよい社会を形成していこうとする主体的な態度が必要である。また今回の次世代育成事業では、世界遺産センターの方々や観光ガイドの方など多くの方との出会いがあった。このような人と人との出会いや結びつきを大切に、それぞれの方の思いに触れ、その思いを大切にしていくことで、将来の社会の主体者となる子どもたちを育成できると考える。今回のような活動を息長く継続していくことが大切である。

様式 2

令和3年度 次世代育成事業における学習記録

[概要報告書 学習記録・活動写真]



世界遺産センターでの世界遺産講座、熊野古道での現地学習に加え、校内でも世界遺産について各自の興味・関心を大切にし、調べ学習を行った。また学んだことをまとめ、学習発表会の場で下級生・保護者・地域の方々に向け、発表を行った。